

## (厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部)

**1 目的**

保育所等の従事者に症状が現れた場合に、早期に陽性者を発見することによって感染拡大を防止する観点から、迅速に抗原定性検査を実施できるよう、配布するものです。

なお、出勤前に体調が悪いことを自覚した場合は出勤せず、医療機関へ受診をすることを徹底してください。本事業で配布する抗原簡易キットは、体調確認アプリなどを活用しつつ、出勤後に体調の悪化を自覚した場合などに使用するものとなっております。

**2 要件**

連携医療機関との連携（※）があり、かつ、抗原簡易キットによる検査に関する研修を受講した職員がいる施設、で都道府県が対象と判断する施設

(※) キットを使用する前に、連携医療機関と連携して、医師による診療・診断を行うことができる体制を構築してください。

(参考) 検査に関する研修について

研修は、厚生労働省が以下のホームページで公開する WEB 教材を学習したことを、各施設の中で確認し、受講者の名簿を作成してください。

<厚生労働省ホームページ>

医療従事者の不在時における新型コロナウイルス抗原定性検査のガイドライン等について

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00270.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00270.html)

### 3 抗原簡易キットの保管等

区分	取扱い方法
保管方法	2～30℃（冷蔵保存の場合は、使用前に室温に戻してから使用）
廃棄方法	廃棄に当たっての具体的な処理手順については、それぞれ製品の添付文書のうち、廃棄上の注意の項を参照いただくとともに、廃棄物の回収事業者にご確認いただくようお願いします。

※保管費用及び廃棄に要する費用は、各施設においてご負担をお願いします。

### 4 使用要件

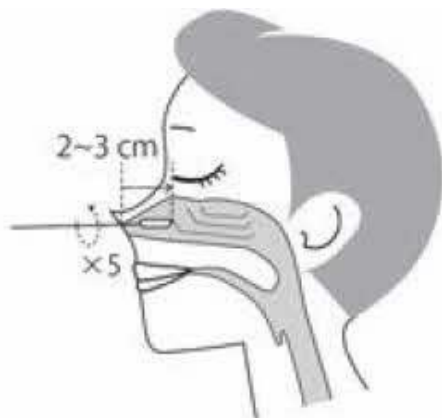
① 保育所等の従事者に**症状（微熱を含む発熱、せき、喉の痛みその他の体調不良を含む。）**が現れた場合に使用します。

② 医療従事者（看護師等）が常駐する施設にあつては**医療従事者の管理下**で、医療従事者が常駐しない施設にあつては**あらかじめ検査に関する研修を受けた職員の管理下**で鼻腔検体を自己採取し、検査を実施します。

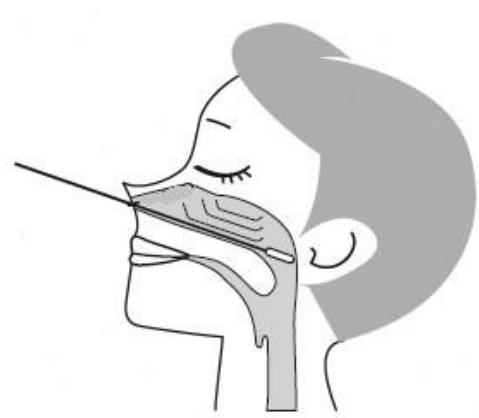
（注意）鼻咽頭検体については、医師又は医師の指示を受けた保健師、助産師、看護師、准看護師若しくは臨床検査技師が採取する必要があります。

③ **基本的には職員への使用**を想定しております。**園児に症状が出た場合には、原則として連携医療機関を受診**してください。連携医療機関等の医療従事者が保育所等において検査を実施する際には、感染防御に十分配慮した環境で行ってください。

鼻腔検体の採取



鼻咽頭検体の採取



## 5 検査後の対応

判定結果	対応
陽性者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 陽性判明者は帰宅・出勤停止し、確定診断で陰性が出ない限り、療養を行ってください。また、速やかに医師の診察を受けることを徹底してください。</li><li>・ 確定診断を待たず、同時並行で、当該陽性者の「初動対応における接触者」を各施設で自主的に特定し、速やかに帰宅させるなどの措置を講じてください。</li></ul>
陰性者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 偽陰性の可能性もあることから、医師が常駐しない施設で検査を実施した場合、施設は、体調が悪い職員の医療機関の受診を促すようにしてください。また、症状が快癒するまで自宅待機とするなど、偽陰性だった場合を考慮した感染拡大防止措置を講じてください。</li></ul>

## 6 報告

お手数ですが、毎月の都道府県等へのキットの使用実績（抗原簡易キットの使用数及びキットを使用した判定結果が陽性だった数）の報告へのご協力をお願いします。